



C-01. 日和山公園から中町を望む(明治30年代)

酒田の町並み
明治・大正・昭和



C-04. 大正中期頃の鍛冶町通り



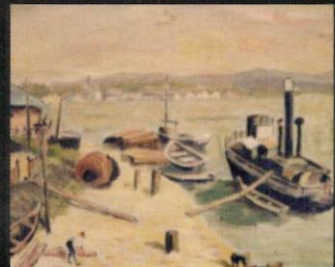
C-02. 明治初期の酒田港(船場町河岸)徳翠軒撮影



C-03. 明治中期頃の中町通り



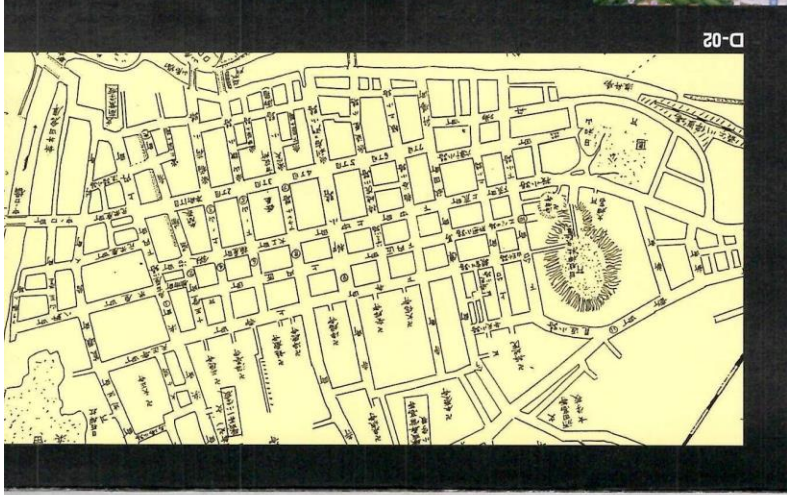
C-05. 昭和初期頃の酒田駅前通り



C-06. 河口から船場町を望む(昭和4年)

酒田市の町並み

D-01. 酒田港・酒田街銅版絵図(明治19年)
 D-02. 酒田街街図(大正末期)
 D-03. 酒田街街圖(佐藤豊一郎筆(昭和9年)酒田市役所)



第135回企画展示
酒田の町並みの移り変わり

酒田市立資料館 住所 酒田市一番町8-16
TEL (0234) 24-6544

- 開催期日/平成17年2月17日(木)～17年4月24日(日)
- 開館時間/午前9時から午後4時30分
- 休館日/11月～3月の月曜日 月曜祝日の場合翌日休館
- 入館料/大人:100円 児童・生徒:50円
(65歳以上の方と身体障害者の方は無料)



酒田湊日和山眺望図

開催にあたって

酒田の町の創始については確実な文献がありませんが、川南から河北への移転が始まり、三十六人衆が本町に屋敷を構えて、最上川河口に沿って町並みをつくり、川岸に船着場や倉庫を置いたのが酒田の創始と見られます。

戦後、志村伊豆守が亀ヶ崎城主になり、町並みの割直しを行いました。

これが現在の町並みのもとになっています。

その後、酒田の町は西部の砂山や海岸部、そして東部の新井田川沿いに開発が進められていきました。

今回の企画展では、この町並みの移り変わりを絵図、地図、鳥瞰図等で見ていき、旧町名の由来などを紹介していきます。



A-01



A-02



A-03

絵図で見る 酒田の 移り変わり

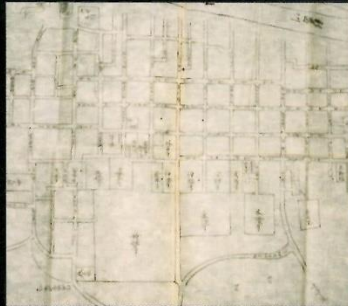
A-01.
亀ヶ崎御城内絵図
天和2より貞享2 (酒田市立立光丘文庫蔵)

A-02.
酒田町絵図
明暦2 (酒田市立立光丘文庫蔵)

A-03.
酒田町絵図
明暦2年の元図 (酒田市立立光丘文庫蔵)



A-04



A-05



A-06



A-07

A-04.
酒田惣御町絵図
元禄9年 (酒田市立立光丘文庫蔵)

A-05.
酒田町組絵図
文化13年 (酒田市立立光丘文庫蔵)

A-06.
酒田町絵図
亀ヶ崎城より東 (酒田市立立光丘文庫蔵)

A-07.
改正増補酒田絵図
江戸後期 (酒田市立立光丘文庫蔵)



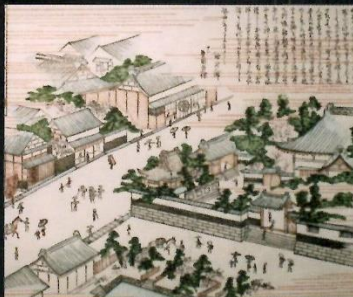
B-01



B-02



B-03



B-04



B-05

絵画で見る 酒田の風景

B-01.
坂田浦眺望図
(紀豊古筆)

B-02.
酒田袖之浦小屋之浜之図 (複写)
宝永~正徳 (本町一丁目本町家付近)

B-03.
鳥海獄袖之浦眺望図
(円潭筆)

B-04.⁰⁵
木版酒田十景
雲嶺 画 (本町一丁目本町家付近)

B-05.⁰⁴
木版酒田十景
雲嶺 画 (亀ヶ崎城付近)

五十嵐豊作 画
「丸の橋」「青原寺の門前通り」
「御家中通り」「最上川河口状図」